

かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



軍勢は渡され、常供のささげ物に代えてそ
むきの罪がささげられた。その角は真理を
地に投げ捨て、ほしいままにふるまつて、それ
を成し遂げた。 ダニエル書八章十二節

しばしば私たちは教会の成長を促されま
す。「なぜ日本の宣教は遅々として進まない
のか?」「やり方や姿勢が悪いのでは?」と言
われているような気がする時があります。
そんな時、人は焦つて、風のたよりで耳にす
る成功話に飛びついてしまいます。

「ほら米国で、ほら韓国で、成長している教
会があるぞ!」

聖書は、教会の成長は教えても、成功する
ことを求めてはいません。ましてや真理を投
げ捨てて成功し、名声を博しても、主の御名
は崇められません。そうではなく、私たちは
「あらゆる霊的な知恵と理解力によって、神
のみこころに関する真の知識に満たされ」た
成長を遂げたいものです。

間違つた教えがはびこる時代です。インス
ピレーションを感じても飛びついたりしない
で、使徒たちのメッセージを熱心に聞いた後
に、それが本当かどうかを聖書から調べた
ベレヤの人たちのようでありましょう。

(JBBF国内宣教委員会委員長・榎本昌博)



伝道者夫人と

メンタルヘルスについて

その働きと立場を問い直す

近年、教会におけるメンタルヘルスに関する諸問題は、教会へ訪れる方々の問題にとどまらず、牧師を含めた迎え入れる側の問題へと拡大しているように思います。特に伝道者の場合は、そうした問題に本人が気づいていない場合もあるでしょうし、いまだに「人を信仰に導く立場なのに、どうして精神的な問題に陥るのか」といった声に苦しむケースも少なくありません。そのような意味でも伝道者の働きと立場について正しく問い直さる必要がありますし、今回の「かいтак」誌が目指す視点はとても有意義なものだと思っています。

特に女性伝道者の働きについては、私たちのフェローシップではその働きが限定されています。教会に女性牧師はいませんし、教会学校や婦人集会以外で、女性伝道者が公の場に立つて御言葉を取り次ぐということもありません。牧師や男性伝道師であれば、その働きが目に見える形で評価を受けたり、時に外部からお招きで御言葉を語る機会もありますが牧師夫人の働きは教会内にとどまるものがほとんどです。日常的な働きも多いので、家庭と教会の区別がつきにくく、とても見えづらい働きでもあります。それゆえに今一度伝道者夫人の働きを再認識することが、本人にとっても、教会にとっても、また夫である牧師・伝道者にとっても、非常に重要であると考えます。

このような中で、伝道者夫人のメンタルヘルスについて、いくつかの小さな提言をさせていただきますと思います。

① 伝道者夫人は伝道者にとって

最大の同労者である

伝道者夫人には、教会での立場（伝道師として）や伝道者としての召命感、さらには御自身の学びや訓練の経緯を含めて、さまざまなタイプの方々がおられると思います。しかしそれらの有無に関わらず、すべての伝道者夫人に共通していることは、その存在が伝道者（夫）にとって、かけがえのない「最大の同労者」であるということです。私自身、母方の祖父、そして父が牧師である家庭で育ちましたので、幼少の頃から牧師夫人（祖母や母）の働きをごく身近で見て育ちました。私の祖母や母に関して言えば、先ほどのタイプの項目は、すべてが「無」です。しかし夫の最大の理解者、同労者として、その働きを支え、父も教会も母の働きを感謝して、その存在を受け入れてくれました（母は教会附属幼稚園の教師でもありました）。キリストのからだとしての共同体のすべてに共通しているように、伝道者夫婦は主にあって一つであると同時に、それぞれに神さまから与えられた賜物と働きがあります（Ⅰコリント一二章）。しかし時に伝道者夫人のメンタルヘルスに問題が生じる場合、伝

道者夫人の働きが、夫の働きの中に埋没してしまったり、あるいは家庭の働きと混同され、教会での働きという認識にながっていない場合が多いのではないのでしょうか。また夫である牧師と教会の板ばさみになって、孤立してしまっているということがないでしょうか。それゆえに、牧師自身がしっかりと夫人と向き合い、牧会の働きを再確認する必要があります。伝道者夫人こそ伝道者にとっての最大の同労者だからです。

② 伝道者夫人はマルタであり、

マリヤのような存在である

（ルカ一〇章三八〜四二節）

牧師・伝道師夫人が教会の様々なことに心を配り、働いておられる存在だということとは周知のことですが、特にそうした夫人こそ、マリヤのようにじつくりと御言葉に耳を傾ける時を持てるような周囲の配慮が必要です。行動によって神にそして人々に仕えることも大切ですが、伝道者の真の働きである、人々に御言葉を届け、信仰による励ましを与えることができるためには、まず、本人の霊性が高められ、整えられる必要があるからです。私は時に礼拝メッセージの応答の祈りを妻にお願いすることがありますが、その祈りによってメッセージがさらに豊かになることを経験します。そのためにもし礼拝の時には、伝道者夫人こそ「マリ

ヤ」であってほしいと願います。

③ 伝道者夫人こそキリストの謙遜、

神の調和と秩序を示す存在である

私たちのフェローシップには優秀かつ有能な女性献身者（伝道者夫人）が多くいます。それは神学校で教鞭をとっていてもよくわかります。またキリスト教界には、女性伝道者として用いられている存在も大勢おられます（娘が入学したミッシオンスクールでの学院長、教師の時のメッセージに感動しています）。しかし私たちの教会において、そうした存在があえて「上に立たない理由」は何か。その答えの一つは、まさに婦人伝道者こそが、キリストの謙遜、神の調和と秩序を示すことができる存在だということです。人の目に見えにくい場所、人の評価を受けない場所において、その能力を惜しみなく用い、なお忠実に主の働きを行ない、家庭と教会の成長を支えている、その存在にこそ、私たちはキリストの謙遜、神の調和と秩序の真の姿を見るのです。このような女性伝道者たちの霊性が主にあって保たれ、そのお働きがますます豊かに用いられることを心より祈っています。「私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。（Ⅱコリント四章一八節）



幕張聖書
バプテスト教会
牧師
上山 要

諸教会からのお証し

挫折と再出発の恵み



船橋聖書
バプテスト教会
牧師夫人
三澤 和子

神学校を卒業した秋に、開拓伝道に着手したばかりの主人と結婚した私は、病弱で生活の知恵も技術もない世間知らずでした。長屋の片隅、集会所と居室が一緒で風呂もなく洗濯も戸外するような借家での生活にお手上げの状態でした。それに結婚後すぐの妊娠で出産、母乳が出ず、下痢続きの赤ん坊を抱えて、精魂尽きてうつ状態に陥りました。人に来て欲しいはずの伝道者夫人が、誰も来ないようになると願うような心境で何年か苦しみました。

やがて夫の勧めもあり、カウンセリング関係の本を読み、講習会などに通い始めました。こんな状況にあるのは自分の責任だと思いつつも、罪深いもので「こんな私に誰がした？」と責任を他に転嫁しようとし、アリス・ミラーの「魂の殺人」等の本を読んで共感したりしていました。そんな中で、粗末な養育スタイルによって人は生きづらさを抱えることになりやすいということを教えられ、ある意味ほっとしました。そして自分が反抗期をきちんと通過出来ていないことに気づきました。私は親から愛され、赦されたという経験も少なく、自信も持てず、

親離れも出来ないままで、結局、人との関係においては親との関係を繰り返し、相手の言いなりになって無理をしたり、怨みを溜め込むだけで、人を赦すことが出来ませんでした。でも、憎しみを抱えたままでいてはならない、両親等への恨みや憎しみを心から追いつめるために、その人たちを赦す必要を教えられました。それで、「誰々のこれこれの罪を赦します。主よ。助けてください」と祈り始めました。その結果、私は反抗期を脱した青年のような爽やかな心になりました。そして、不思議なことに、自分の罪も日に日に鮮明になり、またそんな自分が神に愛されていることがわかりました。

カウンセリングを通さずとも、「赦しなさい」との御言葉を実行すれば、心に自由を得られたことでしよう。でも、心に葛藤を抱えていた私には、その心を解きほぐさなければ、赦すだけの力はありませんでした。赦しとは、相手の罪は罪として認識した上で、その罪を赦すことになるので、自分の立場を主張しつつ、あえて相手に譲歩することになり、結果として心の自由を持つことが出来ます。人は思春期になって、慕っていた親の中に矛盾や罪を見出し葛藤しますが、愛情を受け、赦されて育った子供は自信を持てるので、「まあ、いいか」と容認して果立って行きます。子が親から自立することは、さばきと赦しという作業を経ているように思います。人は神様を信じていなくとも、さばきと赦しに無関係でない存在なのだと思います。神様のおかげで、総じて優しい信徒た

ちに受け入れられ、優しくなった主人に受け入れられ、赦しを味わいました。その結果、人を赦すことが出来るようになりました。教会の交わりには主イエスから教えられる正義と愛と交わりがあり、このような癒しの空間が外にどこにあるのかと思うと、私の伝道のモチベーションとなりました。今は教会の兄弟たちに感謝し、両親を通しての神の子であることを感謝しつつ、6月2日に牧師館を去ります。これからは柏市に移って、70代にふさわしい仕方、主に用いられたいと願っています。

主と教会にお仕えする



岡山聖書
バプテスト教会
伝道師
澤 清嗣

岡山伝道と伝道師家族のために尊い祈りとご支援を重ねてくださり感謝を申し上げます。この度、主のあわれみによって、名古屋BBCの祝福と主の教会の權威において、17名の先生方より尊い按手を授けていただくことができました。

昨年7月より、上田晃先生には、9回に亘り丁寧に予備諮問とみことばの学びを継続していただきました。時には、夕刻から深夜まで身を削って熱心にご指導くださいました。学びを受けながら、みことばの豊かさを再発見させられたり、自らの無知無力さを痛切に感じつつ時を過ごして参りました。また、叱咤激励をもつて、伝道者の実践と献身者としての



あり方について、先生の貴重なご経験を交えて、丁寧に教えていただきました。主のお恵みでした。按手礼式においては、お一人お一人の先生方の祈りの言葉に、按手の重みと責任を覚え、同時に聖霊の感動を覚えるひとときとなりました。諮問において告白した言葉が、按手のための告白に止まることなく、主の御前に責任と誠意をもってお従いすることができるよう、襟を正される思いです。

岡山伝道は1991年9月の開所以来瀬戸内ラインの中心地として、四国、山陽、山陰伝道の拠点としてのビジョンをいただけてきました。ビジョンを継承し岡山から中四国各地に教会が生まれるこ

とを願っています。そのためにも、按手をもつて、いよいよ主と教会にお仕えさせていただき、宣教に勤しみ、独立に向けて前進できますよう励んでまいりたいと思います。続けて、お祈りに覚えていただければ幸いです。感謝の中に。「わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕える者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます」(ヨハネの福音書一二章二六節)

葛西教会の恵み



葛西聖書
バプテスト教会
牧師
大木 英雄

私は2012年3月31日で滝山教会を退任し、新しい牧師の片村先生にバトンを渡しました。片村先生は企画力と管理能力があり、聖書を解き明かす賜物を神様から与えられています。私は神様に感謝しています。私は退任して1年ほどたってから、開拓に出たいという思いが与えられました。我が家は里子を5〜6人預かってファミリーホームをやらせていただいていますので、家から通えるところであればなりません。そのために家から通える範囲で開拓の場所を探していました。そんなときに葛西教会の高田先生から葛西教会に来てメッセージをしてほしいと頼まれました。時を同じくして滝山教会の高木長老がメッセージで(使

徒の働き一六章六〜一〇節)から「マケドニアに渡ってきて私達を助けてください」という御言葉を語られました。これは神様から私に与えられた御言葉だと確信しました。日曜日には小平を9時9分の電車に乗り、葛西駅に10時10分につきます。駅から教会まで徒歩で10分です。

礼拝は10時30分から始まりますので、充分間に合います。葛西教会の教会員は10名ぐらいですが、韓国のファミリーと一組のミヤンマーのご夫婦で10人ぐらいです。教会員と併せて20名弱の方々と聖日礼拝を守っています。誠にアットホームな教会で、私は楽しくメッセージさせて頂いています。1年間奉仕させて頂いて滝山教会と違うところは新しい方がほとんど見えな



葛西教会外観

いこととです。メッセージをさせて頂くことは誠に楽しいのですが、新しい方が誰も来られないと「私の何がいけないのだろう」と自分を責めてしまいます。2014年11月に聖書講演会を行いました。集会案内を配ったのですが教会の周りは全てマンションです。マンションの郵便受けに案内を入れるのですが、それでは地域の方との交わりが全くないのです。週一回、教会員とは信徒育成の学びをさせて頂いています。これからは地域の方々との交わりのために家庭集会を開かせて頂き、家庭集会に集った方々と交わりをさせて頂き、その方々に福音を語らせて頂くとうと祈っているところです。

葛西教会に来て教えられたことは、新来会者が少なく、救われて定着されることの難しさです。開拓教会の先生方のご苦労の仲間入りがやっと出来たという感じです。これからいろいろ教えてくださいます。よろしく願います。

純正な教えに立ち、健全なことを語る



岡崎聖書
バプテスト教会
伝道師
足田 健次

いつも私たちの教会のためにお祈りくださり、感謝いたします。去る6月27日主のお守りと導きのなか、按手に与る恵みをいただきましたことを諸教会の皆様にご報告させていただきます。今回の按手のために、清水教会の道下常弘牧師にご指導いただき、多くのことを学ばせていただきました。この者のために多大なる犠牲を払ってくださいました道下先生戴子先生はじめ、清水教会の兄姉の皆様

に心より感謝いたします。また、当日は多くの先生方に按手の祝福をいただきました。お忙しい中、遠路お運びいただきました先生方お一人おひとりに、重ねて感謝申し上げます。

今回、特に感動したことは、諸教会の先生方に按手をしていただいた後、岡崎教会の兄姉方が私の周りに立たれ、上田晃牧師の按手と共に、この者のために心を合わせて祈ってくださいったことです。岡崎教会の按手をとおして、私は福音宣

教の働きに尚一層、仕える責任を負わせていただくことになりました。

さて、按手礼式のなかで、名古屋教会の上田廣行牧師が御言葉を取り次いでくださいました。「また、すべての点で自分自身が良いわざの模範となり、教えにおいては純正で、威厳を保ち、非難すべきところのない、健全なことを用いなさい」(テトス二章七〜八節)。この御言葉にあるとおり、何よりも自分自身が良き導き手として群れの模範となり、また、純正な教えに堅く立ち、健全なことを語っていかねばなりません。高ぶることなく、主が人々に仕えられたようにこの者自身もへりくだって、主の教会に仕えていきたいと願っております。

岡崎教会の宣教の働きが、ますます豊かなものとさせられ、私たちの教会からも開拓伝道所を生み出していくことができますように。上田晃先生、欣子先生、兄姉方の尊い犠牲によって築き上げられてきた岡崎教会の歴史と宣教の働きを忠実に引き継ぎ、次の世代にもこの素晴らしい信仰を継承していくことができますように。諸教会の皆様からのご祈援をお願いできれば幸いです。



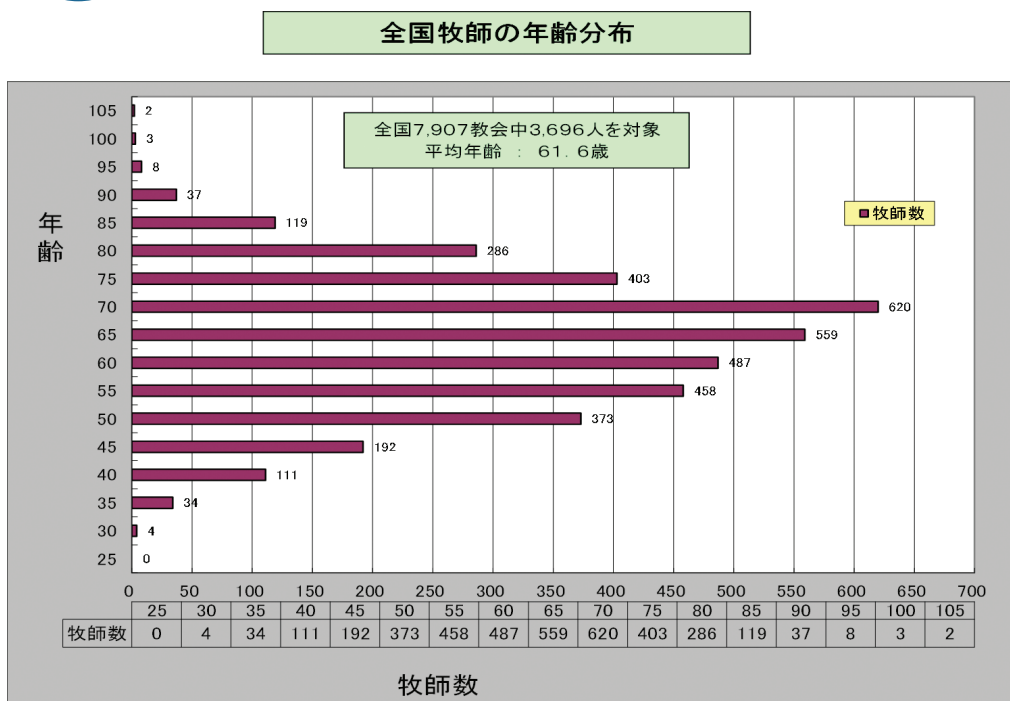
足田伝道師への岡崎教会の按手

日本キリスト教界の現状

『データブック 宣教の革新を求めて ―データから見る日本の教会の現状と課題―』
(東京基督教大学国際宣教センター・柴田初男著、2012年発行)より

2014年11月号に引き続き、日本の教会が置かれている現状をグラフや具体的な数値によってご紹介します。キリスト教界全体の動向を把握することで、私たちJBBF諸教会に委ねられている日本宣教の祈りを増し加えていただければ幸いです。なお、ご紹介する統計と考察文はすべて、東京基督教大学国際宣教センターと柴田氏のご好意による転載です。一部、氏の了解を得て手を加えています。(編集:徳田 信)

02 全国牧師の年齢分布



『データブック』44頁より

国の総人口に占める65歳以上の人(以下「高齢者」)が占める割合で、その国の高齢化の度合いが測られる。日本社会は、平均寿命の上昇により、1970年に総人口に占める65歳人口の割合が7%を超える高齢化社会に、その24年後の1994年には14%を超え高齢社会になった。そして2000年以降OECD諸国の中では最も高齢化が進んだ国となり、2005年には20%程度まで上昇し、2010年時点では高齢化率23.1%となつて、21%を超える超高齢社会に突入している。今後、2055

年には、その傾向が更に進み、65歳以上の割合が40.5%に及ぶことが予想されている。その一方で、社会全体が、多産多死から少産少死に変化していく中で、出生数の低下が続き、平成になると少子社会への本格的な対応が求められるようになり、総人口が減少するといった人口減少社会を迎えようとしている。

そのような社会環境の中、教会といえども無関係であるはずはなく、一般社会以上に高齢化率が高いのではないかと懸念さえある。グラフは、全国7907の教会中、無牧、兼牧を除く約6900の教会のうち『キリスト教年鑑』に登録されていた3696人を対象とした分布である。データ数としては、プロテスタント教会の教会数の約54%、全教職者約10000人のうちの37%になる。しかし、対象となった牧師は、一教会一牧師としての報告のため、どちらかといえば教会を代表する牧師になると思われるので、報告されないその他の教職者として複数の牧師がいる教会の牧師や、副牧師、伝道師は、報告された牧師よりも年齢の若い方が多いのではないかと推測される。従って、平均年齢は61.6歳であるが、実際の平均年齢としては、いくらか低い方向に行くのではないかとと思われる。しかしながら、65歳以上の高齢者の牧師が42%以上、71歳以上でも23%を占めているのが実態であり、牧師の高齢化率は相当高いと言わざるを得ない。

市村直実先生を偲んで

名古屋聖書バプテスト教会
牧師・上田 廣行



1993年11月、名古屋教会より市村師家族は岐阜市での開拓伝道に派遣されました。「岐阜市で伝道の灯火を消してはならない」その思いを胸に岐阜市伝道、再度のチャレンジとなりました。直実姉は、高校を卒業してすぐに、スプリングフィールドのバプテスト・バイブル・カレッジ入学のために渡米しました。生涯の伝道スピリットに大きな影響を及ぼす4年間の奉仕と学びでした。卒業後、名古屋教会で伝道師として働いた時には小学生、中学生の子どもたちをロバの子賛美隊に入れて指導をしました。ひとりひとりに神に対する姿勢を教え、しっかりと根付かせました。岐阜伝道所でも日曜学校伝道に力を注いでいました。自分の子どもたちについても、主の道を悟し、罪の悔い改めを指導し、結果、子どもたちの中に、その実を見ることができています。他人を指導する前に、自らの罪と向き合い続けました。聖書に真剣に聞き、主と、とことん交わり、涙を拭い去り、絶望の中にも、なおも、希望を告白し、前に向かい、人を励まし、悟しました。病床でも、主を証することを続けました。人のために、あるいは、主のために、わが身の事を顧みずに、そのもてる力と愛とを注ぎました。その勢いを誰も止めることはできませんでした。「どのような場合にも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。」（Ⅱテモテ三章五節）その如くに生きた伝道者の一人に直実姉は加えられました。

国内宣教委員会 会計報告(2015年上半期)

主の御名を讃美します。いつも国内宣教委員会の働きのために、お祈りとご支援をいただき感謝します。

2015年上半期(1月～6月)の会計報告は以下の通りです。

【一般会計】開拓伝道所・教会への補助、国内宣教カンファレンス、委員会の活動等のために使われています

収入	支出	繰越金	現在残高
794,500円	- 519,008円	+ 475,676円	= 751,168円

【基金会計】伝道所や教会の建物等の購入資金として貸し出すために使われています

現在基金高	現在貸出高	現在基金保有高
5,688,434円	- 500,000円	= 5,188,434円

基金会計説明

【基金高】

昨年12月までの基金高	5,862,890円
1月～6月までの献金額	100,000円
カンファレンス費支出	274,456円
現在基金高	5,688,434円

【基金貸出高】

昨年12月までの貸出高	1,140,000円
1月～6月までの返済額	640,000円
現在貸出高	500,000円

来年初頭の国内宣教
カンファレンスのためにご協力を！

今年の1月のカンファレンスでは、できるだけ多くの伝道師が家族で参加できるようにと、希望者に参加費の全額補助を行いました。多くのご利用をいただき、普段は家族で遠出し交流する機会のなかなかない伝道師・牧師家庭が交わりを深める機会となりました。また、婦人集会も充実させることができ学びと交わりに大変恵まれた時となりました。そのため、次回も同様の補助を行いたいと願っています。そして、多くの伝道者・牧師家庭が集い、また群れの先生方にもお集まりいただき、主にある励ましと交わりに恵まれた機会になればと思います。

前回の補助額は50万円ほどでした。現在、10万円のカンファレンス指定献金がさげられており感謝します。指定献金および一般会計からカンファレンスの補助はなされます。これらの満たしを覚えてお祈りくださり、お献げいただければ感謝です。

献金振込先 (郵便振込)

00140・2・654375

JBBF 国内宣教委員会